

— 第百壱号 — (2008年春号)

春の陶器市

町では、105回の陶器市ポスターが刷り上がりました。これから有田は市モードに変化していきます。

私達は、1896（明治29）年の第1回品評会（九州山口陶磁展の前身）から数えて今年で106回と主張していますが、あまり大したことではないと耳を傾けて下さいません。105回も106回も同じようなものですが、戦争のあおりを受けて7回中断しているみたいです。そのうえ、1953（昭和28）年に50周年市として、翌年を51回としてからややこしくなったみたいです。つまり、50周年の年は51回で、翌年は52回になります。50回（昭和27年）、50周年（昭和28年）、51回（昭和29年）と続けたため、1回少なく数えるようになったのでしょうか。50周年は51回と数えますので、1954（昭和29）年が52回になるはずですが。あまり小さな事にこだわらない有田人氣質のあらわれでしょう。歴史に関心のある人は、少しこだわると面白いかも知れません。今年も106回の春の陶器市がやってまいりました。

～2008年しん窯春の陶器市 限定商品～



①紅毛青花たまご型井
 ②魚群たまご型井
 ③異人づくしたまご型井
 各3,500円



花つなぎ四角井
 (大) 3,500円
 (中) 2,800円
 (小) 2,100円

親子三代ロクロに挑戦

80歳のおばあさんが、ロクロの前に座ってやきものづくりを始められました。聞けば、おばあさんの発案で有田でやきものづくりを体験しようと願かなって1日ロクロ体験に来られました。娘さんの卒業祝いを兼ねてこの春休みを利用してしん窯花座へ1日入門されました。娘さん・お母さん・おばあさんの女三人が和気あいあいと難しいロクロに挑戦です。世の中で親子3代の話は事欠きませんが、三人揃ってロクロをひいている姿はほほえましく、また、80歳のおばあさんがロクロの前に座って下さる姿は、神々しくてギネスものでした。三人三様、登り窯から出てくるやきものが今から楽しみです。

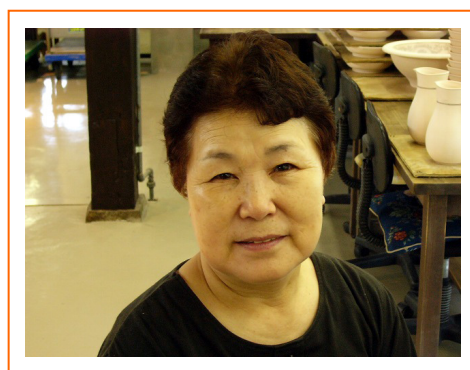


職人さんのひとりごと

～第15回・藤スイさん～

私が有田に嫁いできてしん窯に昭和39年入社、今まで45年間お世話になっていろんな仕事をしてきました。私が入社した頃は、菊三郎の名でした。

鑄込み場、水拭き、線引、絵描き、濃み、素焼積み、釉仕上げ、どんな仕事でも自分なりに頑張ってきたと思います。皆様のおかげで長い年月できたと思って感謝しています。



第10期陶芸教室のご案内

1996（平成8）年。青花誕生20周年を記念して、1㎡2部屋のミニ登り窯を築窯しました。そして3年後、ロクロを10台据えた花座棟が完成しました。1999（平成11）年9月に第1期陶芸教室 in しん窯がスタートしました。今年で第10期を募集します。毎年20数名の生徒さんが卒業されていますが、当校は留年生が多いのが特徴です。すでに9期連続留年して下さっている頼もしい嬉しいお客様もいらっしゃいます。もちろん腕も練磨され、教室が何よりのリハビリですと言って下さいます。今期から諸般の事情で授業料が値上がりしますが、しん窯匠集団自慢の職人さん達を揃えて、お客様をお待ちいたしております。

2008年度 第10期しん窯陶芸教室のご案内

今年度も、しん窯陶芸教室が開講されます。8月末に開講、6ヶ月間の講習期間の内に複数回の登り窯焚きを行い、2009年3月初めに閉講します。

開講日は毎週土曜日で、午前・午後・夜の3時間帯に分かれ、それぞれ10名ずつの募集人員となります。講習時間は1回につき2時間30分です。開講式・閉講式は各時間帯合同で日曜日に行います。

基本的にロクロによる作陶を講習します。使用陶土は「唐津土」です。希望者には天草杯土による磁器ロクロも講習します。

すべての作品は登り窯で焼成をします。絵付け・装飾などの加飾技法についても、簡単な講習を行います。

■大まかな講義内容（予定）

合同開講式→タマづくり→ヒモづくり→タタラづくり→ロクロ成形
→加飾→釉掛け→登り窯（第一回）→ロクロ成形→加飾→釉掛け→
登り窯（最終回）→合同閉講式

■開講時間

午前コース	9:30～12:00
午後コース	14:00～16:30
夜間コース	18:30～21:00

■開講日（予定）

2008年

8月 31日（日曜日・合同開講式）

9月 6日・13日・20日・27日

10月 4日・11日・18日・25日

11月 8日・15日・22日・29日

12月 6日・13日・20日

2009年

1月 10日・17日・24日・31日

2月 7日・14日・21日・28日

3月 1日（日曜日・合同閉講式）

※曜日表示の無い日はすべて土曜日です。全25回予定

■登り窯焚き

2008年 11月 ・ 2009年 2月（変更になる場合があります）

■各種料金

入会金（新規入会者のみ）	10,000円
会費（1期一括前納）	50,000円
陶土（焼成技術料含・持込も同料金）	土物 300円 /kg
	白磁 400円 /kg

※電話やFAXでのご予約を承っております。お気軽にお問い合わせ下さい。

TEL 0955-43-2215 / FAX 0955-43-2889

しん窯スタッフより、瓦版100号によせて、によせて

しん窯当主 梶原茂弘・和子

青花瓦版100(百寿)号記念に、職人さんに一言メッセージを出してもらいました。おかげで、家族的な社風を彷彿とさせる紙面に刷り上がりました。わずかA4版表裏の薄っぺらな内容ですが小さな窯元から小さな情報発信でも、志は大きく、世界の有田を見据えて毎月号書き綴ってきた、8年4ヶ月。私が執筆するようになってからは7年3ヶ月。さすがに最近では毎月グッドニュースを捨てるにも気合いを入れないと続かないようになりました。100号を節目にして廃刊しようと思いましたが、数人の読者から惜しまれて、また、生来ののぼせものの気質が頭をもたげてきました。結果として、年4回の季刊号として続ける事にしました。

さて、100号記念企画ですが、職人さんの「100号によせて」のメッセージを読んで、熱いものがこみ上げてきました。すばらしい！嬉しい！22名の職人さん全員参画なのです。強制したわけでもなく、無理強いしたわけでもありません。刷り上がった原稿を読んでいて、それぞれの顔が鮮明に浮かんでくるから不思議です。しかも全員の顔が。一般的に3:4:3の法則があり、約7割の人達から支持されるとそれは総意であり、すべてうまくいくし成功間違いなしです。それが全員参画だったので、驚きであり感動であります。一言一句何度読んでも心地良いのです。優劣の問題ではありません。50字以内という限定はありましたが、どれひとつとってもすばらしい！嬉しい！すべての人にとって、書くという作業は簡単ではありません。書いたものは消せませんし、後世に残ります。それゆえ、かっこ良く書こうとか美辞麗句を並べたがります。しかし、しん窯の職人さん達の言葉は素直なのです。だからストレートに心の中に入っていきます。この100(百寿)記念号の企画として職人さん大集合と号令をかけた事は、正しかったと思います。

わけあって工房も縮小し、少数精鋭になってしまいました。暇でも忙しくても不満は出ます。少数精鋭になり、新しい年十二支のはじめ子の年になって気分一新し、緊張感を持って仕事始めに臨みました。今年の手おろしは、7名もロクロの前に座り圧巻でした。文明の波が押し寄せ、機械化・自動化がどんなに普及しようとも、手技というモノづくりの原点を失わない工房であり続けたいと願っています。

お屠蘇気分も薄れ、工房内に活気が戻ってきました。吸塵機やコンプレッサーの音が時々けたたましい音をたてていますが、ほど良いリズム感があって眠気も吹っ飛びます。活気とは、職人さん達の内なるやる気であり、息づかいであると思います。活気みなぎる工房が有田じゅうに伝播していけば良いと思います。モノづくりの町。職人さんの町。世界の陶磁器産地のメッカ。大いなる田舎。このような有田を育てていきたいと思う次第です。



ミニ登り窯築窯1996(H8)年
しん窯青花20周年記念事業